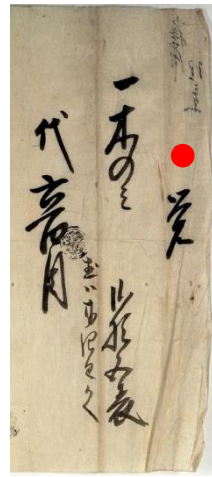


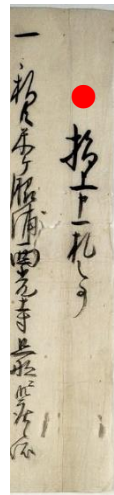
① 玉村九兵衛家文書 ② 加藤竹雄家文書 ③ 松嶋一男家文書 ④ 飯田広助家文書 ⑤ 勝見宗左衛門家文書

いずれも当館蔵 難易度★☆☆☆

① 表題は「覚(おぼえ)」



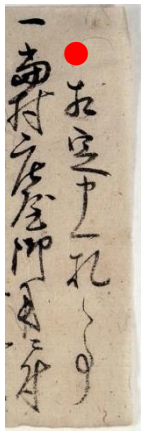
② 表題は「指上申一札之事」



③



④



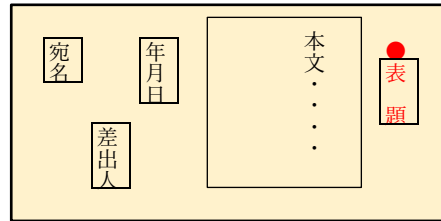
⑤



**解説のヒント**

古文書には

表題がつけられていないものもありますが、一紙とよばれる一枚物の古文書の多くは表題が書かれています(●の行が表題)。



表題は定型化したものも多いため、それだけではない場合も多いですが(写真①～④)、その表題が読めれば、おおよその本文の内容が推測できる場合もあります(写真⑤)。

写真①の古文書の表題は1文字で「覚(おぼえ)」と書いてあります。②～⑤の表題はよく似ており、それぞれ「○○申△△之事」とありますが、これは「△△を○○申△△之事」という意味になります。⑤はいわゆる借金の証文の表題で、よくみられるものです。いずれにしても、表題を読むことは、よく使われる文字や言い回しに慣れるトレーニングになります。

写真③～⑤の表題を読み、□に文字を記入しましょう。

一、当村法光寺七月寄講之時分、他村方

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □

写真③…写真②の文言とよく似ています

写真④…あることを定めています

一、当村庄屋御用二付

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □

写真⑤…借金の証文にみられます

借令百五拾匁 但利足

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □

お名前またはペンネーム

(添削をご希望される場合は、「お名前またはペンネーム」をご記入の上、文書館閲覧室のカウンターにご提出ください)

**座学講座のお知らせ**

7月5日(日) 12日(日) 19日(日) 23日(木)、10時30分～12時(午前の部) / 13時30分～15時(午後の部)、於研修室、各回定員18名、要申込。 ※午前と午後は同じ内容です。お申し込み時にご希望を伺います